令和元年度やすらぎ羽咋教室研修会

＜日　時＞　令和元年１１月２９日（金）１４：００～１６：００
＜会　場＞　石川県立羽松高等学校　視聴覚教室
＜参加者＞　２４人（学校関係１７人、関係機関５人、スタッフ２人）

［講師紹介］

中谷（なかたに）　智一（ともかず）　先生

１９５４年兵庫県の生まれ、国際基督教大学卒業、同大学大学院博士前期課程修了、金沢在住２５年目、臨床心理士

【職　歴】
武蔵野赤十字病院心理相談室カウンセラー、東京都板橋区衛生部精神保健相談員、関西社会福祉専門学校専任講師、北陸学院短期大学助教授、北陸学院大学教授（平成２９年３月退官）

【論　文】
「板橋区保健所における心理臨床活動」　「５人の心理臨床家による緊急支援事例」　「援助する側のスタンスーカウンセリングとコーチングー」
「ある短期大学に学生相談体制を確立する試みー赴任から１１年目の活動告ー」　「生徒指導・教育相談・養護教諭や担任とカウンセラーー中学校での連携の実際ー」など

田幡（たばた）　啓子（けいこ）先生

専修大学文学部人文学科心理学コース卒業、同大学大学院文学研究科心理学修士課程修了、公認心理師、臨床心理士

【職　歴】
金沢大学医学部神経精神医学教室、医王病院、能登第二病院（現 能登病院精神センター）など
令和元年度は 田鶴浜高校スクールカウンセラー、西北台小学校スクールカウンセラー、児童家庭支援センターあすなろ子育て広場 心理担当職員、石川県教育支援センターやすらぎ羽咋教室スーパーバイザーを兼任

「釈迦に説法」～経験から学んだこと～

ー 講師紹介 ー　田幡　啓子 氏

やすらぎ羽咋教室でスーパーバイザーをしております田幡です。よろしくお願いします。今回、中谷先生に私が講師をお願いした理由というか気持ちをお話しすることで、中谷先生のご紹介とさせていただきたいと思います。

中谷先生と初めてお会いしたのは､多分、私が駆け出しの頃ですね。仕事して間もない頃に、県の心理士会というのがありまして、そちらの方の集まりでお会いしたのが最初ではないかと思います。それ以外の接点はないのですが、その当時から中谷先生は、お会いするととっても気さくに声をかけてくださって、私の中では、『すごく温かいイメージの先生』として、ずっと何年も来ております。ただ、先生は加賀の方でご活躍されておりまして、私は能登の方ということで、仕事上の接点というのはなかなかありません。本当に何年かに一度ぐらい、研修会でお会いする程度。それでも、その度に、「久しぶり。元気？」っていう風に声をかけてくださっていました。

そういう感じで、仕事上の接点はなかったんですが、心理士として接点があるとなると、ちょっと残念なことではあるんですが、やっぱり悲しい事件とか事故が起きた際の緊急支援という時に、県の心理士会の方からチームとしてその学校に派遣されるんですけれども、この春そういう形で、中谷先生と同じチームとして、ある学校に派遣をされました。ただ、その時間やその曜日は、それぞれ一人の心理士の対応ということが多いので、学校で一緒にお話ができるということは無いんですけれども、情報共有という形で密に連絡を取らせていただいた時に、中谷先生の、その学校の生徒さん達だけではなく先生方への細かい配慮という所に、改めて身の引き締まる思いがして、私もまだまだ自分は足りないところがいっぱいあるんだなっていうことを良い意味で感じさせていただきました。それも先生は決して指摘されるというのではなくて、仕事をするその姿勢で伝えてくださる。そういうところも、私はとても尊敬できる先輩だなと思っております。

それで今回、今年度の研修の講師として、レジメの講師紹介のところにもあるように、経験もとても豊富な先生でいらっしゃるので、そういう経験豊かな面や暖かさを、出席していただいている先生方にも感じていただけたらと思いまして、お願いをした次第です。

それでは先生、よろしくお願いします。

ー 講　演 ー　中谷　智一 氏

【自己紹介】

みなさん、こんにちは。何からお話しましょうかね？　講師紹介でも書いてございますけれども、私、大学というか学校を出て、最初は病院臨床、総合病院の外来勤務部門にいました。そこで、心理相談室の常勤として、上は交通事故を起こしたおじちゃんから、下は小学

校や入学前の、ちよっと知的障害のあるお子さんとか、言葉の出にくいお子さんとか、あるいは胃潰瘍の小学生、多分家族関係からだと思いますが、そんな方々を診ておりました。で、そのあとは、公務員をしておりました。そのときは地域臨床ですね。そこでは、地域の中で、薬物やアルコールの依存症、統合失調症、神経症、登校拒否、家庭内暴力、暴走族、いろんな方のお付き合いをしました。そして、私の母の具合が悪くなったので故郷へ帰りまして、母の看病をしつつ、介護福祉の専門学校の専任講師をやってました。ご老人や障がい者の介助や援助を担う人達の育成ですね。

そうやってる最中に、私の大学の恩師が、実はこちら（石川県）がお里で、定年退職されて帰って来られて、こちらの大学の学長になっておられたんです。その時に、一人心理の欠員が出た。で、「中谷来ないか」とおっしゃったんです。我々の業界で「来ないか」というのは「来い」ということです。それでこちらへ来まして。今度は、もちろん介護の学科もあったんですが、精神保健を教えたり発達臨床心理学を教えたり、いろんなことをしておりました。そして、それをやりながら学生相談もしていました。もう、思春期の悩みがいろいろです。そんな学生たちの相手をしておりましたが、同時にこちらの臨床心理士会に入って、スクールカウンセラーを始めました。

そんなこんなで、これまで仕事をしておりましたが、昨年大学を辞めました。ただ、今は年金だけでは暮らせませんので、スクールカウンセラーをやって糊口をしのいでおります。今も、１日行くと、だいたいケースが２～３件。その他に、担任の先生、養護の先生、教頭先生や校長先生なんかと一緒に相談をするのが最低で５件、みたいな仕事を毎週やっております。いいですよ、スクールカウンセラーは。というか臨床は。なんでか。レジメ作らなくていい、授業の準備しなくていい、テスト問題作らなくていい、教授会出なくていい、採点しなくていい、評価しなくていい。これはありがたいですね。もう紙と鉛筆だけ。これだけで仕事をしております。しかも、やってると、誰かと一緒に困るか一緒に喜ぶかですから。一人じゃないですからね。授業は全部一人でしょ。今はいいですよ。ちょっとのびのびしております。おかげで、病気もちょっと良くなってきました。ということで、そういうやつが今からお話をします。そう思ってお聞きください。

【まず初めに －病院時代に上司から釘を刺されたこと－ 】

レジメをご覧ください。『釈迦に説法』と書きました。私がここで喋る事って、釈迦に説法です。皆さん、ご存知のことだと思います。ご存知のことで、「あ、こいつもこんな経験してるんだ。あ、一緒だ」と、ちょっとご安心いただきたいというふうに考えて、今日のレジメを組んでみたわけです。そういう感じでお話をしますので、そのようにお聞きくださいますよう、お願いをいたします。

『まず始めに・・・』。これね、病院の心理の相談室ににいた時に、外来であろうが入院患者さんであろうが、いきなり飛び込みで入ってきて、遊んで帰る人もいるし、本読んで帰る人もいるし、中には「ちょっと話が・・・」っていう人もいて。そういう人達の話を聞いた時に、そのあとで上司に言われたのが、「あの子と病棟で会った時に『その後どう？』な

どと言うなよ。」と。分かりますよね。言ったことを内緒にしているかもしれない。なのに、そこでそんなことを聞くなんて。「あ、それは考えてました。ラッキーなことに」と言ったら、「そうか」と言われて。どうも、第一段階の試験は合格したようです。学校でもそうですよね。相談があったりした時も勿論そうですが、そのあと廊下で出会った時に、「その後お母さんどう？」とか言っちゃダメですよ、というお話です。相手が一人で歩いてきていれば別ですけど、そこに他の子がいるかもしれないし。もし、二人連れで歩いてきている時にそうなったら、「何それ？」って話になっちゃう可能性があるんですよ。ですから、これはご注意ください。

これは実際にあったことですけど。学生相談を受けていまして、その話を先生同士で共有しますよね。ある程度、大丈夫な所まで。そしたら、ある先生が言っちゃったんですよ、「○○さん、□□なんだって」と。私、その後の相談ができませんでした。私が漏らしたことになりますよね。本人には、「必要最小限の情報は共有する」って伝えてあるんですよ。それでも、いきなりそう言われたらショックですよね。それは無しにしましょうよ、ということです。必ず、本人の了解を取った上で動いてくれよと。で、どこまで話していいか。例えば、恋の悩みがあったと。それで、この頃ちょっと成績が悪いと。ひょっとしたらご飯も喉を通らないかもしれないし、本当に痩せてくる子もいますし、成績も落ちますし。その時に、周りの先生から、「あの子、この頃変なんだけど、なんか聞いてる？」と言われた時にどこまで答えるか。本人には、「聞かれたときにここまで答えていいか？」というのは、私、必ず聞くことにしています。だいたい、恋の悩みなんて言えませんよね。それにバラされたくないですよね。ましてや失恋なんかしてたら。そんな時には、本人に、「とっても個人的な悩みで困ってる。精神病ではない。病院に通っているわけではない。それでちょっと痩せる思いをするぐらい悩んでる。だから私のところに相談に来てる。内容は言えない。この説明でいいか？」と聞いて、学生が「その程度なら許してやる。」と言った時に、「ＯＫ、じゃあそれでいく。」ということにしてます。

【事実判断と価値判断 ー情報を共有する際の大切な点ー 】

次は、『事実判断と価値判断』。これね、しょっちゅう授業でもしゃべったんですよ。あのね、ごっちゃになってるの、学生さんたち。で、ひょっとしたら、親御さんもそうなんです。なんでも、「良い」か「悪い」か、なんですよ。

こんな例え話を、よく学生にしました。ここに工場があってラインが流れてる、ベルトコンベアみたいにね。そして半製品が流れてきて、それに一つの部品を取りつける。そういう仕事をするラインがあって、お向かいさんがいる。ラインが流れてくると、この人は１時間に５０個の製品を出し、お向かいの人は１００個の製品を出す。「どう？」って聞いたら、「向かいの人の方が偉い。」って言うんですよ。偉いですか？　雇用者側にとっては都合が良いですよね、倍働いてくれるんだから。それは、雇用者の価値観でしょ。「この人は向かいの人の半分しか仕事が出来ない」あるいは「向かいの人はこの人の倍の仕事をする」。これは事実ですよね。その違いです。

成績が上がった。良いことかもしれない。だけど、それで何かを犠牲にしているかもしれない。部活を一生懸命頑張ってた子の成績があがった、けど部活はどう？　記録が落ちてるかもしれませんよね。どっちも頑張っていたら、どっかに無理がきてません？　そういうふうに考えないとまずいだろうと。その辺のことで先生方と情報を共有するときには、「良い悪い」じゃなくて「事実」を。「成績上がった。あ、めでたい。だけどね・・・」って。成績が上がったことは「事実」だけど、それを「良い悪い」と判断する前にすることがあるということを、必ず考えていただくようにしていましたし、今もしています。

【事例性と疾病性 ーこれも病院時代に考えさせられたことー 】

『事例性と疾病性』と書きました。あの、この辺、とても速くいきますけど。ご安心下さいね。必ず脱線しますからね。『事例性』と『疾病性』って何のことか。例えば、インフルエンザになる。誰でもなって、誰でも同じ経過です。急に発熱して、喉の痛みや関節の痛み、食欲不振ですよね。みんな同じです。これが『疾病性』です。「病気としての一定の経過」です。

統合失調症もそうですよね。あれは文化の差だとかいう人もいますけど、嘘です。どこの国へ行っても、南アメリカでもアフリカでもオセアニア辺りでも、中国でも日本でもロシアでも、一定の割合で出てきます。つまり、人種・宗教・気候・風土・文化、関係ないんです。必ず、１％前後の割合で出てきます。精神病質も、同じことです。今は人格障害って言いますけど、あの手の病気。ほら、“さかきばらせいと”みたいな事件とか。宮城県に住んでた女の子が、名古屋に出て来て、一人暮らししてる最中に宗教の勧誘に来たおばちゃんを家の中へ入れて、手斧で殺して浴室に置いたという事件とかね。それから、九州の方で、お父さんが弁護士の娘さんが、同級生を殺してしまったという事件とか。あれは明らかに人格障害の例です。一定の割合で出ます。ちょっとわかりにくいです、人格障害は。統合失調症は専門家が会えばわかりますが、人格障害は会ってしゃべらないとわかりません。で、これをほうっておくと、ああいうことになります。

だから、精神科の経験のあるスクールカウンセラーがもっと必要じゃないか、と思います。特に、高校には要るんじゃないか、と私は思ってます。中学校までってのは、統合失調症は出ないですから。出てくるのは、だいたい１５・６歳以上です。人格障害がどんどん顕在化してくるのも、そのぐらいです。だから、そこから精神科の経験のあるスクールカウンセラーを置いとかないと。それまでは見てもわからないし、手の打ちようがないんです。

では、『事例性』。例えば、「私が風邪をひいた」と「この方が風邪をひいた」、そして、「私がなんで風邪をひいたか」と「この人がなんで風邪をひいたか」とは、持ってる意味が違ったりするんですよ。風邪をひいた「私」が典型的な父ちゃんでしたらば、ただ仕事休めばすみますよね。ところが、風邪をひいたのが「うちの妻」だったらどうか。うちの家では、ほとんどのことは妻と共有してます。私、料理しますし洗濯しますし、アイロンかけますし、ボタン付けしますし。ズボンの裾上げ、これ、私がやったんですが。でも、そうじゃないお家だと、奥さんが風邪ひくとどういうことが起こるか？　すべてが止まるわけでしょ。意味が違いますよね。これが『事例性』です。「あの人が風邪をひいた理由」あるいは「ひかなきゃならなかった理由」、「この子が不登校にならなかった理由」と「あの子が不登校にならなかった理由」は違うんです。似たようなこともありますが、違うんです。必ず、どこか違うんです。同じ対応をしているように見えても、違うときがあるんです。いいですか、『事例性』と『疾病性』とは、こういうことです。

【「同じ対策」の弊 ー学校の先生方から言われたことー 】

ある日、学校で、３名の不登校の相談を受けました。で、その３名の相談が全部終わってから、担任の先生がそれぞれ来られましたので、話をしました。「これはこういうことだ」、「こちらはこういうことだ」、「だから、先生はこれやって」、「先生はこっちやって」、「この子、これで困りそうだから、こういうふうにやって」というふうに話をしたら、相談室に来られた先生方が「なんでそれぞれに違うの？」って。だって違うんですよ。でも、その違いを説明したらおわかりいただけましたけど。一見、些細な違いなんです。具体的に言いましょうか。

例えば、お父さんが、とても男性的で、結果重視で大変。お母さんは、その価値観そのま

まべったりなお家。その家では、不登校になるということは、烙印を押されたことになるんですね。別のお家では、お父さんはそうだけど、お母さんは全然違う。「いいわよあなた」みたいなお母さんがいると、これが違うんですよ、当然。で、生徒さんと話していて、ぽろっと出てきたときに「そこを教えて。」って、それを聞けるかどうかです。あるいは、雰囲気の中で、「こんなお父さん、こんなお母さんって理解でいいの？」って確かめることですよね。そこをちゃんと、ちょっとずつちょっとずつ、相手の話の腰を折らないように押さえていく。「こんなわかり方でいい？」って。

仕事始めて６年目ぐらいかな、ある師匠に言われたのは。「プロの基本は確かめることだ。お前、確かめてるか？」って言われて、ドキッとした覚えがある。「すべての仕事は確かめろ」なんて言われますよね、上司に。「これやって！」「わかりました。こうやって、こうやって、こうやれば良いですか？」って確認するか、しないでそのままやるか。違いますよ、イメージ合わせしないと。イメージ合わせしといたら、上司は心配しないです。こちらも困った時に相談しやすいです。ところが、イメージ合わせしてないと、何やってるかわからないです、相手からは。こっちは一生懸命やってんだけど。で、失敗したときも、今どこまできてるか相手はわからないですよ。手伝いようがないです。だから、失敗したときに傷がでかいのはこっちです。失敗しそうになった時って、大騒ぎしましょうね。大騒ぎすると、必ず誰か助けてくれます。

あれね、失敗っていくつもあるじゃないですか。ささやかな失敗、微笑ましい失敗、あるいはちょっと重大な失敗、致命的な失敗とかあるじゃないですか。失敗って、皆さん毎日しますよね。私もそうですけど、あれ、失敗の練習してるんですよ。だったら、重大な失敗になる前に、ささやかな失敗や微笑ましい失敗に変える練習を毎日してるんだと思って、楽しく失敗しましょうよね。同じ失敗するんなら。で、大騒ぎする練習したら、必ず誰かが助けてくれるし、色んな知恵が入ってきます。文殊の知恵です、本当です。色んな所から知恵がきます。年寄りからだけじゃないですよ、若い人もくれます。「あ、それ、あるね！」みたいなことがありますから、大騒ぎしましょう。「困った、困った、困った！」って。これ、大事なことです。ひとりで、静かに潜水艦みたいに困っちゃだめですよ。浮上してきませんから。潜水艦って、「潜る」って言うんですね。「沈む」って言わないんです。沈むってのは上がってこないですからね。　・・・と、海上自衛隊の人に聞きました。

【「わかったつもり」の危険性 ー同じ不登校でも･･･ー 】

今した『同じ対策』の話のように、似てるんだけど違うという話。「不登校の誰々君」じゃなく、「誰々君が今不登校」という話なんです。 分かりますこの違い。不登校という看板がついてるんじゃないんです。「私不登校です」って言ってるわけじゃないんです。「この子は不登校」なんてないって言ってるんです。なりたくてなったんじゃないんです。どうしようもなくてなってるんです。

じゃあ、そのどうしようもなくてなってるのを、どこから手助けするか？　本人に聞かなきゃわからないんです。本人に聞いてもわからない時もあるんです。「じゃあ、とりあえずここ手伝うけど、いいかい？」っていうような話から始めるしかありません。そのうちに、相手から欲求が出てきます。「これやって欲しい。」とか。そしたら、そこをしっかり手伝えばいい。その前に、もし客観的にわかっていることがあれば、「ここを手伝っていいかな？」って言う時もあります。おせっかいに提案しますけど、私このおせっかいって好きなんですよ 。教員って、基本的におせっかいなんです。どうしてこの子が今この状況にいるのか。家庭の状況はどうなのか。兄弟との関係はどうなのか、友達との関係はどうなのか。部活はどうなのか、趣味はあるのか。お母さんの好きなこと、苦手なことは何か。お父さんはどんな

人か。これね、最初に全部聞こうと思ったら駄目ですね。「取り調べ」になっちゃう。取り調べは相談じゃありません。まず相手の話を、腰を折らないように折らないように、だけど聞きたいことをいつ聞くか。

実は、聞きたいことができると話が聞けないんですよ。言いたいことができるともっと聞けないんですよ。先生方経験ありません？　仲間内で喋ってるでしょ、何人かで、わいわいわいわい、バカな話を。その時って、誰かの話を聞いてます？　聞いてないですよね。相手の話が終わるのを待ってるだけ。自分の話を組み立てながら。違います？　私もそうでした。この「も」をつけてるのは、「先生方も一緒でしょ」って言いたいわけなんですけど。トランシーバーと電話の違いをお分かりですか？　トランシーバーって、「コチッ」とボタンを押して喋ると、向こうが聞こえる。だから、話し終わった時に「どうぞ」って言うでしょ。人間ってね、多分、トランシーバーなんですよ。電話では、こっちが喋ってる時に同時に向こうが喋っても、こっちは聞こえますよね。人間はトランシーバーですから、こっちが「コチッ」と押したら、向こうの話は聞こえないんです。で、何か言いたいことや聞きたいことができた時、「コチッ」と押してしまっている気がするんです、私。だから、「ボタンを押さないで話を聞いてあげて」と思います。質問があったら、とりあえずメモ用紙にビッと質問をメモして、で、すぐに集中して話を聞いて。

質問している時、相手の話聞いてるとね、気がつくとだんだん相手と同じ姿勢になりません？　椅子に座って、相手が背中丸めているとこっちも背中丸まってたりするし、相手がこんなになってたらこっちもこんなになるし、相手が椅子にずれて座ってたらこっちもずれて座りそうになるし。相手がちょっと辛い話をしてて、ため息ついたりするじゃない。先生方、一緒にため息ついてません？　あれ、一緒にため息つけてたり、一緒に息が吸えてたりする時って、本当に『息が合ってる』んです。これができると、話聞けてます。

【事実と所見・所感の分離 ー相手を見るということー 】

この辺も全部同じですね、今の話ですね。いわゆる大学でも専門学校でもそうなんですけど、先生方は、生徒さんたちの相談を受けて、話を聞いて、記録とられてますよね。で、どこまでが「記録」で、どこが「所見」か。あとの人が読んで分かるように書いた方が、引き継ぎは楽です。私なんかは、こんな紙があったら、縦に折って、こっち側に事実書いて、そっち側に受けた感覚とか所見とかを書く。あるいは、自分の意見を書くときは、前にその人が言ったところに矢印つけて、括弧にして、考えたことを書き入れるとか。そんなふうにしてます。相手が言ったこと、こっちが言ったこと、こちらが考えたこと、それを区別して、全部わかるようにしとかないと、あとで情報共有ができません。

「いかにも悲しそうな顔で」というのは、こちらの気持ち。いつもそんな顔してる子供かもしれないし、逆に、「何でもないよ」って言いながら大変な子供もいるんですよ。相談室に応接セットがあって、テーブルがありますよね。実はガラステーブルがいいんです。そうじゃないテーブルがあったりすると、全身が見れないんですよ。顔で笑いながら足がギューッてなってたり、スカートをギューッてしてたりとかね。男の子が、なんかこの辺つねってたり 、ポケットに手突っ込んでずっとこうやってたりね。見えないんですよ。だから私、ガラステーブルがいいんです、全部見えるから。でね、真正面には座りません。相手の視線が逃げるように、必ず斜めに座ります。真正面にいるとね、特に私みたいな目のでかいやつがいるとね、嫌みたい。先生方、相手の顔を見る時どこ見ます？　相手の目を見ると、こっちの目が泳ぐんです。で、顔の中心の辺りを見ると顔全体が見えるんですよ。私、だいたい相手の顔見る時には、ぱっとそこ見るようにしてます。そして、見る時には下から見上げない。下から見上げるっていうのは、「族」のお兄ちゃんたち。あれ、不愉快でしょ？　我々は嫌

いなんです、あれ。だから、お化けは下から斜めにこうやって出てくるんです。上から出てくるのは、「貞子」ぐらいですね。ですから、私は、目線は投げかけるようにすることにしています。相談者の真横に行くのも嫌い。なるべくこちらの目線が気にならないようにしてます。

そして、こちらがちょっとはリラックスしてること。緊張してると相手に伝わります。ほら、犬嫌いな人を見ただけで犬が吠えたりしますよね。あれって、伝わってるからでしょ、その人のビリビリビリが。だから、こっちが「おっ犬か」みたいな態度だったら、吠えないですよ。同じです、人間も。特に、どうしても生徒対先生って、そんなふうになるじゃないですか。こっちが強いんですよ、どうしても。だったら、「こっちは強くないよ」というのを、「怖くない怖くない。強くない強くない。だから・・・」という情報を、相手に伝えなきゃいけない。じゃあどうするか。私は、「教えて」って、言うことにしてます。「もっと教えて」って。これ、結構効きます。先生方もそうじゃない？　例えば、風邪ひいて病院へ行って医者に会ったとき、「〇〇ですね、薬出しときましょ。」と言われるんじゃなく、「へぇー３日前から熱が出て・・・。もっと教えてください！」って言われたら、「あそこが痛くて、ここが痛くて・・・」というふうに言いますよね。言いたくなりますよね。「教えて」って、結構効くんです。

あとはね、ちっちゃい子でも大きな人でもそうですけど 、こっちが見てるということを、確実に相手に伝えると安定します。ただ見てるだけじゃダメなんですよ。メモとってるとかね。家へ帰ったときに、「ビデオか。トトロか、面白そうだな。」ってのは、見てないと言えないんです。「お、飯食っとるのか。唐揚げか、俺も食おう。」とか。これでいいんです。見てないと言えないんです。これ、「あなたを見てる」って言ってるんです。小さい子にこれをやると、てきめんに安定します。ちょっとぐれかかった生徒にやると、「見てやがる。」なんて言いますけど、それでもどっか変わります。どっかくたびれてる人にやると、「見守ってる」ってことになる。

ある中学校で、「授業が始まってもノートと教科書を出さない子がいる」って相談を、担任の先生から受けたんです。なので、「先生、机間巡視の時に『出てない』って言って。それ以上は言わないで。」って。それでもこっちに歯向かってくるなら、「出てないだろ。事実だろ。」って。否定のしようがないですよね。その先生、とても勘の鋭い人で、ニヤッて笑って、それ始めて下さったんです。毎回「出てない、出てない」って。ニヤニヤ、ニヤニヤしながら。そのうち、その子は、「しゃあねえな」みたいな顔になってきて、そのうちに「出てない」って言われるのを待つようになった。その先生に、「そろそろ出てんじゃないの？」って聞いたら、「出たんです！」と。それで、「先生、次に何て言うんです？」って言ったら「開いてない」だと。その通り！　その子ね、二ヶ月でノートも出てました。面白いですね。「見てる」って言ってるわけでしょ。無視しちゃダメなんですよ。「見てる」って、結構大事。これレジメのどこにもないです。ごめんなさい。

【医療で云う治療と remedial education －motivation の問題－ 】

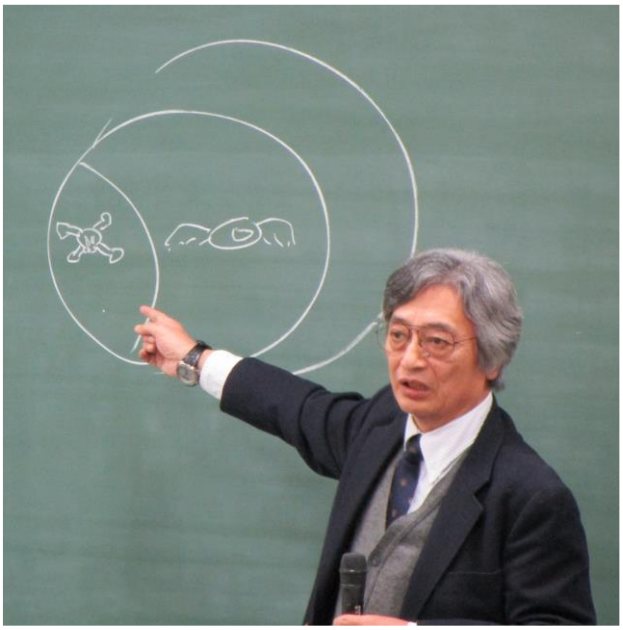
『remedial education』ってのは、治療教育のことです。できないところをできるようになってもらうためには、モチベーションがいるんですよ。そして、モチベーションを上げていきながら、われわれは仕事をしていくわけなんです。

モチベーションがついた時にどうするか。子どもたちって、こう、まっすぐ右肩上がりに成長したりしないんですよ。不登校の子でもそうですよ。「学校に来られた。三日来られた。四日目にくたびれて来られなくなった。」って私の所にメールが来るんです。「いいじゃない、人間なんだから。あんた機械じゃないよ。」って言ったら、「ほっとした（涙）（涙）

（涙）」ってメールが返ってくる。これ、しょっちゅう先生方にも言います。人間、機械じゃありません。まっすぐ右肩上がりにはなりません。だから、「これが出来たら、次これ。」って言わないで。ひとつ出来たら、そこの余韻に「よいーん」って浸らせてあげて。出来たら、ちょっと休憩しよう。

相談に来られたお母さんとかお父さんによく言うのは、「この子何が好き？食べ物で何が好き？」「〇〇が好き？　じゃあ、今日の帰りそれ買って帰ってあげて。」ということ。子どもと一緒に食べようよ。店屋物でも何でも、ピザでも良いんです。一緒に食べて、「美味しいね」とか、「ちょっと塩っぱいね」とか、笑い合ってるのがすごい大事。家の中で、無駄話がどんだけ出来てるのか。先生方も、ご家庭大丈夫？

ＮＨＫが、国民生活時間調査ってやってるんです。ご存じですか？　古いデータですけど、今も変わらないと思います。家族の中での一日の会話で、報告・連絡・相談・確認・申し送り・引き継ぎみたいな事務的なの全部どけて、本当、だら話・無駄話がどれだけあるか・・・。正解は、７分です。これで、日頃雑談が出来てない家で、子どもが困ったときに相談できると思いますか？　無理ですよ。子どもはゲームやってて、お父さん帰ってくるの遅くて、お母さんは台所にいて・・・。「一緒にいてあげてよ」ってのを、よくお母さんに言います。ごはんはピザで良いじゃん。あんなので良いんですよ。栄養なんて、毎日バランス良くしなくても、一週間でつじつまあえば良いんですよ。子どもたちもそうでしょ？　頑張って、頑張って勉強してるのは、毎日すき焼きかステーキ食ってるようなもんですよ。たまにはお茶漬けだし、お蕎麦だし。そうなりますよね？　ちょっと休憩させてあげないと。



で、『remedial education』。お医者さんてね、人間の中に病的な部分と健康的な部分があるとしたら、病的な部分をちっちゃく、ちっちゃく、ちっちゃくしていく。これ、医療サイドの仕事ですよね。我々の仕事は、そうですか？　問題行動をなくすことですか？　それもありますよね､確かに。だけど、私達の仕事の大きな部分は、健康的な部分を大きくすることでしょ？　例えば、ドクロマークのこのぐらいが不健康な部分。こっちの天使マークが健康な部分。この不健康な部分を減らすんじゃなくて、この健康な部分を増やしていったら、相対的に不健康な部分は、パーセンテージとして少なくなりますよね。もっと言うと、先生も、家族も、本人も、「ここが嫌だ」とか思ってることが気にならなくなったら、問題にはならないんです。

例えば緘黙。気にならなければ、他のコミュニケーションの仕方があれば、問題じゃないんです。そっからです。それでもコミュニケーションとれたら、そっから先、ちょっとずつ言葉でのコミュニケーションしていけば良い。ところが、保育園の先生でも学校の先生でも、マシンガントークなんです、「ダダダダダ」って。ぶわぁーっとしゃべって。そんなことしたってしゃべりませんてば。滝の下で水にうたれて行をしてるんじゃないんですから。そうじゃなくて、指でしゃべったら面白いんです。これだけですよね。そしたら、向こうがニヤーって笑いますから。笑ってくれれば、こっちのもんです。吃音であっても、気にしなければ良いんです。周りが気にしなければ、本人だんだん気にしなくなります。リラックスします。吃音減ります。不思議なことに、吃音の人って、歌うたうと歌えるんですよ。出だしさ

えとちらなければ、あとスラーッといくんですから。出だしを一緒に歌ってあげれば歌えますよ。吃音の子でも、コーラス部にいたりしますもん。歌えるんです。大丈夫ですよ。だから健康な部分を増やしましょ。不健康な部分を減らすのは医療関係と養護の先生に任して。とりあえず、我々教員の仕事は、健康的な面に働きかけて、どんどん伸ばす。増やす。これをするのが一番じゃないですかね。

【こちらが受ける「感覚」の大事さ －「伝わってくるもの」は何か？－ 】

子どもが、「学校やめたい」って言ってきたとします。それをどう聞きますか？　何通りに聞きますか？　本当に学校をやめたいんでしょうか？　注目されたいんでしょうか？先生との関係を深めたいんでしょうか？　気にして欲しいんでしょうか？　それとも、「ちょっと嫌なことがあった」って言いたいんでしょうか？　それで、嫌なことが学校であったのか、家であったのか、地域社会であったのか、わからないじゃないですか。そしたら、「嘘だろ。」じゃなくて、「やめたいんだ。ふーん、ちょっと教えて。聞かせてよ。」って、話聞くしかないんですよ。もし、すごい顔して「学校やめる」って言ったら、「その結論に至ったわけを教えて。」、「そう考えた筋道を教えて。」って言う。「聞いて納得できたらしゃあないけど、納得できなかったら文句言うぞ。」、「納得させることができないんだったら、お父さんやお母さんを納得させることなんてできないだろ。」みたいな言い方したり。いろんな言い方をします、私。

授業中に一生懸命私語してる子は、本当に私語をしたいの？　心ここにあらずかもしれないし、なんか一生懸命別なこと考えてるかもしれないし。だから、そのことが気になって気になって仕方がなくて、私語してるかもしれない。あるいは、こちらに応答しないで、外ばっかり見てる。そうやってたら、やってることのわけを考えた方が良いかもしれない。「困ったことがあったら、一緒に行こう」って前から引っ張っても良いし、横で一緒に歩いても良いし、後ろから押しても良いし。今、その子が、引っ張られたいのか、一緒に歩きたいのか、背中押されたいのか。

相談の場合、だいたいのお母さん方は、背中を押されたい。一人で困ってらっしゃる。だから、まず安心してもらって。で、困ったことをちょっとぶちまけて、身を軽くしてもらって。こちらの言葉が入るところをちょっと作って。「手伝うよ」って言って楽になってもらって。そして、「とりあえずこれやってみて。」って。で、「これやったらどうなったか、また教えて。」って、やっていきます。

お父さん方にはね、自分がやってて多いなと思うのは、取扱説明書みたいな説明すること。「一般的にこうですよ。」、「この子の場合こうかもしれない、だからお父さんこれやってください。」、「ここはやめてください。」。こうやると、お父さん方は楽。不思議ですね、男ってどうしてこうなんでしょうね。何でも、すぐに対策立てたりしません？　困ったら対策。男って、課題解決行動しかやってないんですよ。「電球が切れた。替えればいい」みたいな。 だから、すみません、ここの男性の皆さん、多分皆さん同じです。家へ帰った。着替えた。冷蔵庫開けて缶ビール出した。テレビつけた。ビール開けた。そのあとで家族から話があるって言われても無理。もうくつろぎモードに入っているから。このモードを変えるって、男にはむちゃくちゃ難しいんです。女性軍、わかって！

だから、話があるときは、あらかじめ「話があるの。」と言っとけば 、モードが切り替わる途中でこらえるんですよこっちは。で、缶ビール持ちながら「話って、何だ？」と聞けるんです。ところが、飲んじゃったらもうダメだからね。これ戻すのに、すごい時間かかりますからね、女性諸君。で、女性って、これ想像ですよ。いつも何か考えてない？マルチモードでしょ？　マルチモードだから、優先順位つけにくいでしょ？　堂々巡りしたりしませ

ん？　で、「もうこんなの考えるの嫌だ、やめよう。寝よう」って、寝て起きたらまた考えてるでしょ？　普段、男にね、突然「今何考えてる？」って聞いてごらん。考えてないから。課題があって、初めて動く。普段は、何も考えてない。カラーンとして、女性から見たら馬鹿です、はい。男性から見たら、女性は無駄なことしています。火星人対金星人みたいなもんで、分かり合えるはずがない。深くて暗い溝がある（笑）。それなのに、一緒に暮らしてるって、これ奇跡ですよ、不思議なことに。子供達はお母さん方と同じで、気にしてると、気になるんです。

人生から考えたら、不登校なんてせいぜい長くて５年。最悪の場合３０年くらい行きますけど。そうならないようにするのが皆さんの仕事で、それは分担すればいいんです。一人で抱えてしまおうとするからそうなる。大体、引きこもりを３０年とかいう家って、没交渉でしょ？　誰にも助けを求めないでしょ？　介護疲れで、被介護者殺しちゃったりって、あれもそうですよ。誰も助けてないでしょ？　大騒ぎすればいいんです。そうすれば、誰かが手を出すんです。家の中にアル中がいたら、大騒ぎすればいいんです。ＤＶだって、大騒ぎすれば良いんです。それをしないから、要保護児童対策地域協議会とかとリンクができない、警察とリンクができない、児童相談所とリンクができない、警察サポートセンターとリンクができない。それで、虐待があって、誰かが死んだら学校の責任なんですよ。危機管理は、なるべく関係機関と情報共有することですから。必ずです。これやっとくのは、実は保身なんです。学校を守ることだし、生徒を守ることだし、生徒の家族を守ることだし、親類縁者も守りますよ。これやらないと、みんな傷つくんです。

【I message と You message －私はこう思うよー 】

昔、ある中学校のスクールカウンセラーで、一日勤務だったんです。ある日、朝礼の最中に職員室に入ったんです、私の机の所に。朝礼が終わった段階で、ドーンと後ろのドアが開いて、詰襟のホックとボタンが二つくらい外れてる中２坊主が入ってきて、片っ端から先生方に何か聞いてるんですよ。何やってるんだろうと思ってたら、先生方は驚いた顔して、「授業があるから」って出ていかれるんですよ。みんないなくなっちゃった。残ってるの、教頭先生と私だけです。で、教頭先生はニヤニヤ笑って、こっち見てウィンクするんですよ。「あっ、こっちにふるなー」と思って。そして、その子、教頭先生の所へ行ったんですが、何言ってるかそこで初めて聞こえたんです。「どうして、人が人を殺しちゃいけないのか、教えてくれ。」って。その教頭先生、こっち見て、にやっと笑って、「その答えを出してくれる人がいるよ。」って。そうらきた。先生方は、どう答えます？　哲学的に言うと、本一冊になっちゃう？　そんな難しい問題じゃないんです。中２でも分かります。「おいでー。」、「教えろよ。」。「うん、君と僕の間で、人を殺してもいいというルールがあることにする。ＯＫ？」、「ＯＫ」。その瞬間、「俺がお前を殺す。文句言うな。」って言ったら、「えっ」って言ったんです。これ、５回やりました。やっと５回目で、「いいか、殺して良いと言うことは、殺されてもいいってことなんだ。君、自分が殺す側にいると思ってるだろ？。殺されるかもしれないんだぞ。それでいいのか？　わかったね。」って。

立場変えるとか視点変えるって、とても大事。暴力事件でもそうですよ。なんで暴力したのか。「お金が欲しくて、鞄ひったくろうとしたら、おじいちゃんを押し倒しちゃって、傷害罪で警察が関与して、児童相談所の所長の所に行って・・・」みたいなこと、ありますよね。その時、その子がお金を欲しかったのは？　家の中が荒れ放題で、愛情がなくて、帰ってもつまんなくて、お父さんがＤＶやってたりすると、家にいたくないじゃない。そんな時どこ行くかと言うと、ゲーセンかどっかでしょ。

警察の人にもよく言うんです、私。その辺で夜遅くまで徘徊している男の子や女の子に、

「家に帰れ」って言わないで、理由を聞いてって。家に帰れないのかもしれない。家へ帰ったら、お父さんがまたＤＶするかもしれないんですよ。殴られるかもしれないんですよ。そんな家へ帰れってのは無理ですよ。もしそうだったら、その家を何とかしなくちゃいけない。ＤＶ止めなきゃいけない。「お家は暖かい」、そんな家ばかりじゃないですよ。そこに気がついて欲しい。だから、『I message と You message』というふうに書いたんですけど、「お前〇〇だろう」ということではなくて、「私は〇〇だと思うよ」ということです。

もっと分かりやすく言うと、学生時代を思い出してください。友達と夜遅くまで喫茶店で盛り上がってた。時間を見たら、もうバスがない。自動的に言い訳を考えながら家に帰る。そおっと鍵を開ける。カチッと音がして、開けたらお父さんが立ってる。そこで、「何時だと思ってるんだ。」って言われたら、考えた理由を話すだけですよ。「友達と一緒にいたら友達が具合悪くなって」、「それで家まで連れてったら家の中でまた大変なことになってしまって」。嘘ですよ、これ。もしその時、お父さんから、「帰ってきたか。何もなかったか？　心配したぞ。無事だったか。はやく寝ろ。」とか言われたら、何か言えます？　言えませんよね。これです、『I message』。「今何時だ」も、同じ意味のこと言ってるんですよ。親は心配してるんです。だったら、「心配した」って素直に言えば良いんです。「〇〇だ」という言い方と、「私には、あなたがやってることはこう見えるよ。」という言い方は違うんです。ガラス割った、友達殴った、何でも良いですよ。それは、客観的事実。でも、「なんでやったの？　君が損すると思うよ。」、「乱暴な子だ、粗暴な子だとレッテル貼られるのは君だよ。」と。

不登校だろうが、非行だろうが、最初に、お父さんやお母さんに「私はこう思うけど、お父さん、お母さんどう思う？」って言うと、大体納得なさるんですよ。で、その次申し上げるのが、「我々は、手伝えるけど代われないんです」、「この子が頑張らなきゃいけないんだけど、今、頑張れないんだ」、「だから、ちょっと、休ませてあげて」、「言うのやめて、静かにさせてあげて、考える時間あげて」と言うことです。子どもたちも、そうです。いつも群れてる子どもは、大人になりにくいです。一人になって、自分と向き合う時間が必要です。特に、中高生。大学生も、そう。出来ない子は、だめ。だめって言い方悪いけど、薄っぺらい。本読んでない子は、薄っぺらい。二時間スペシャルのドラマの、あの人物の書き込みの甘さ、浅さ。あんなの見たって仕方がない。本、読まなきゃ。『カラマーゾフの兄弟』読んでごらん、『こころ』読んでごらん。そこですよ。ただ私が未だに腹立ってるのは『舞姫』なんですけど、森鴎外って自分のこと描かないんですよね。ずるいよね、あいつ。森林太郎って奴は。保身ですよ、あれ。ああいうの、私気にくわないの。あ、すみません、自分の個人的な感想言ってしまいました。

「伝わってくる」ってどういうことか。一緒にいて、「こいつどうしようもないな」と思ったことありません？　その時って、だいたい本人もそう思ってるんです。「どうしようもない」って。だから、「どうしようもない」って思ったときは、「どうしようもないって思ってるよね。」と聞いてやって下さい。そうしたら、頷くか、驚くかです。その時に切り口が出てくる。「じゃあ、何からする？」、「出来ることあるかなぁ、一緒に考えようか。教えて。」って。時間はかかるんですよ、これが。仕方がないですよね。だって、わずか十何年かしか生きてない人間が、レパートリーの少ない中で一生懸命考えなきゃいけない。こっちは失敗の塊ですから。七転八倒の結果がこれですからね。だからレパートリー増えまくり。だから、こっちのレパートリーを教えて、「こんなことを出来るかもしれないけど、どう？」って話も出来ます。そこですよ。

お母さん方お父さん方と話をしてると、下手すると、子どもと同じレベルにまで戻って一緒に悩んでらっしゃる。でも仕方が無い、親だから。一時的に視野狭窄みたいなのが起こってる。そんなときには、こっちが「お父さん、お母さん、こんな経験無いですか？　そんな

とき、どうなさいました？」と聞いたら、レパートリーが出てきますよ。そして、「お父さん、それ、お子さんに話してやってもらえます？」と言えたりしますよね。伝わってくるものから、進展があったりします。そこを何とか考えていっていただくと嬉しいぞ、と言うことですね。

【現場で一瞬、考えてしまった事例 －支援・連携のあり方－ 】

母親・父親・教員など、生徒と関わりのある人へ適切な助言・支援をすることによって、問題解決の方向へと向かった事例をご紹介いただきました。

－現場での事例１ ～母親への支援～ －
　すぐにキレる生徒の例。母親に母親自身の考え方や行動を見直してもらうことによって、子どもへの接し方が変わり、問題行動がなくなった。
－現場での事例２ ～先生方と連携した支援～ －
　非行に走りがちな生徒の例。学校の先生方と連携しながら、粘り強く関係を継続することによって、立ち直ることが出来た。
－現場での事例３ ～医療機関や家庭と連携した支援～ －
　幼児期に発達障害と診断され、自分に対する祖母と母の厳しい接し方に苦しんだ生徒の例。発達障害ではないということがわかり、父親も理解を示し協力してくれたことにより、自己肯定感や目標を持つことが出来た。
－現場での事例４ ～関係機関と連携した支援～ －
　家庭での両親の反社会的行動に苦しむ生徒の例。学校と警察、社会福祉事務所などの関係機関を繋ぐことにより、保護することが出来た。

私の経歴の中に、公務員というのがあるでしょ。保健所時代に、社会福祉事務所に机があって。「門前の小僧」で福祉のこともちょっとわかるようになって。こんなときには、その経験が生きます。学校の先生方は、福祉のことをわからなくても、スクール・ソーシャル・ワーカーをつかまえられますよね。県教委にいて、巡回してくるんでしょ？　だったら、学校指導課に連絡入れて、「スクール・ソーシャル・ワーカーにつないでくれ。こんなことで困ってるんだ。」と聞かれれば良いと思う。使えるものは、全部使いましょう。そういう風にお仕事なさることをおすすめして。私、１時間４５分しゃべってしまいました。

【質疑応答】

最後に、質問にお答えしたいと思います。いくつかの質問をあらかじめ聞いていたのですが、その中で私が覚えているのが、「守秘義務があって、相談受けた人間が、１人で抱えていて良いのか？」と言う質問です。

私が、ずっと学校でやっているのは、子どもに関する情報で、学校内で共有した情報は、学校の中からは出さない。学校として、守秘義務を守る。そして、必要な情報は、必要な先生に必ず渡す。だって、学校の先生は、守秘義務お持ちじゃないですか。職務上知り得た情報は、正当な理由なくして漏らしてはいけない。みんなそうですから、学校からは漏らさない。だけど、管理職や担任や必要な先生には、ここまでは話せると言うことは、私からは全部話す。そうでないと、チームが組めない。チーム組むって、すごく大事です。あと、なんか質問がありましたら、どうぞ。

＜質問＞：場面緘黙の生徒や、その傾向のある生徒とつながりを持ちたいと思っていますが、うまくコミュニケーションがとれなくて困っています。話をしたいと、何ヶ月間も試みていますが、なかなか関係が良くなりません。毎日の日誌や振り返りを提出させていますが、あまり書いてくれません。何か、良い手だてはありませんか。

〇中谷先生より：筆談は出来ますか？　いきなり先生が、紙と鉛筆を出してきて、「好きなことはなに？」「暇なとき、なにしてる？」って書いて渡すと、どうなります？　それで、好きなことがわかったら、その好きなことについて教えてもらってください。何が、どう面白いのか。で、先生もそれをかじってください。そして、「ここがわからない」とか、専門的な教えを仰いでください。そうしたら、一生懸命に説明を始めると思います。お父さんやお母さんからも情報をもらって、「暇なとき何してる？」「どんな音楽聴いてる？」「どんな本読んでる？」などと、聞いてみると良いです。先生が筆談始めちゃう。言葉で聞かない。どうでしょう？　驚くと思いますよ。にやにや笑って、やってください。

〇田幡先生より：よく学校の先生方から受ける質問に、「これ聞いても良いんですかね？」というのがあります。これを聞くことによって、せっかく学校に来はじめたのに、また来なくなるんではないか？という不安。これ、すごく多いんですけれど、聞かれることで来なくなる子っていうのは、あんまりいないと私は思っています。ただ、聞いたときに、その子がどんな表情をするかってのは、見ていただきたいと思います。先生方が聞きたいことを聞いたときに、何か答えるのが嫌そうな表情をするとか、うつむくとか。その時には、その質問を引っ込めれば良いだけ。「答えづらそうだから、聞かないね。やめとくね」ってなって、「この先生は、必要以上に入ってこない人だな。安心だな」って感じてもらえたら、その後の関係作りというのが、よりうまくいくかなと思います。聞くこと自体を怖がらずに、聞いた後の様子とかを見ていただければ、と思います。

【やすらぎ羽咋教室　木田室長　挨拶】

【研修会の様子】